

の　ぐち　う　じょう
野口雨情

楽しむショートコース

START

① 海の総合文化センター
距離 約1.1 km 徒歩 約15分

② JR 牟岐駅前
距離 約0.7 km 徒歩 約12分

③ 満徳寺
距離 約0.3 km 徒歩 約5分

④ 5 牟岐漁港 出羽島連絡船乗り場
距離 約0.5 km 徒歩 約8分

⑥ 宮の本コミュニティセンター
距離 約1.1 km 徒歩 約16分

GOAL

海の総合文化センター
総移動距離 約3.6 km 所要時間 約56分

全行程ロングコース

START

① 海の総合文化センター
距離 約1km 徒歩 約15分

② JR 牟岐駅前
距離 約4km 徒歩 約1時間

③ 10 牟岐町 町歴 古江
距離 約3.6km 徒歩 約50分

④ 満徳寺
距離 約0.3km 徒歩 約5分

⑤ 牟岐漁港 出羽島連絡船乗り場
距離 約3.7km 所要時間 約2時間
(連絡船待ち時間、乗船時間約15分を含む)

⑥ 出羽島内 出羽津神向かい側
牟岐港より 距離 約0.5km 徒歩 約8分

⑦ 宮の本コミュニティセンター
距離 約1.8km 徒歩 約35分

⑧ 小笠嶋 牟岐無線局 手前
距離 約2.3km 徒歩 約40分

⑨ 古牟岐公園内
距離 約3.1km 徒歩 約40分

GOAL 海の総合文化センター

総移動距離 約16.6km (出羽島への移動距離は除く)
所要時間 約6時間22分 (出羽島行き2時間を含む)



※牟岐みなと節歌碑は「牟岐みなと節歌碑設置協議会」「昭和24年会同級生一同」「1968年度成人者一同」「出羽島熱帯植物研究会」など、多くの有志、団体の方々の思いにより設置されました。



①「海の総合文化センター」
正面玄関の左側、駐車場の入口
に設置されています。
沖に出ていた漁師たちは漁を終
えると、や岐港の先に連なる「五
輪山」「御岳山」「矢野山」を目標
して帰還していました。出羽島を
訪れた南情もまたこの時々を望み
ながら島を目標したのです。

歌碑紹介

※解題の一例です

昭和十一年二月十二日。

野口雨情が、徳島市にいられたのを聞いた当時の牟岐町長・富田加久三氏は、徳島毎日新聞記者を通じて牟岐町に招くことを申し入れました。

同年五月に行わ

れる「牟岐漁港修築工事」の竣工式を機会に、

念願であった「牟岐民謡」の創作を依頼するためです。幸い雨情とは面識もあり、

快い返事を得る



ことができました。

雨情が「牟岐町」を訪れたのは、二月十七日の午後三時です。あいにくの雨でしたが、花屋旅館に落ち付くこともなく、富田町長に案内を頼み、西浦の浜から東浦の浜へと、雨の漁村の情景を心ゆくまで眺めて歩きました。

翌十八日は、申し分のない快晴でした。富田町長たちは雨情をさそい、午前十一時より小舟で「出羽島」へ向かいました。

「小張崎」を離れる頃から二匹の白い蝶々がやってくる、出羽島まで付いてきてしまいました。

同行者たちは



別段気にすることもありませんでしたが、雨情はこの出来事を一節にしています。

出羽島港に着いた雨情たちは、同行者の案内で「大池」へ向かいました。一行が山頂近くの畑にさしかかった時、雨情が、アツと驚きの声をあげました。見ると、その畑は一面「エンドウ」の花盛りです。雨情はこの光景に感動し、

また一節が生まれることになりました。

島をくまなく廻り南国気分を満喫した一行は、組合で食事をすませ、出羽島をあとにしました。



同行者たちは、帰路船中でも見える限りの名勝地を説明し、雨情の問いかけにも答えました。港に戻った雨情たちが、「八坂八浜」の絶景をドライプして前に帰ったのは午後四時のことです。雨情は、その夜静かに創作活動に入りました。

翌十九日の早朝。雨情は、出来上がった歌を十五枚の半切りに記しました。歌を託された富田町長は、叙情豊かな十五節の歌に、いたく感銘したと記しています。

名残を惜しみつつ、雨情が牟岐を去ったのは、午前十一時半のことでした。



富田町長と雨情の別れ

野口雨情は滞在し、近くに住み親交のあった「牟岐」に感銘を記しています。

「定本 野口雨情集」より

昭和十一年二月十八日泊印（松葉書）
東京市外有馬寺寄道小路 根崎門立様
二十日六日頃には到着致します。
ここは徳島県牟岐町の牟岐といふ所です。
十七日

野口雨情

その他の碑 山頭火句碑「大震災と津波の史碑」

自由律俳句の俳人 野田山頭火（神田正一）は明治15年山口県生まれ。明治34年に雨情も在籍していた東京専門学校に入学します。流転のちのち得意とした山頭火は、全国を放浪し数々の句を残しました。句碑の場所に在った木賃宿「長尾屋」に辿り着いたのは昭和14年のことです。手厚い接待を受け風呂にも入れて貰った山頭火が、嬉しげに酒屋まで焼酎を買いに行く様子が記されています。



旧牟岐小学校前には、大地震と津波の史碑2基があります。右側の大地震記念碑には、安政元年11月4日に発生した大地震と津波の被害状況や永正9年、慶長9年、宝永4年の震歴などが刻まれており、左側の牟岐町南海震災記念碑には、昭和21年12月21日に発生した南海道地震と、これに伴う津波の被害で54名の人命が失われたことなどが刻まれ、後世への教訓となっています。



新民謡「牟岐みなと節」全15節

作詞/野口雨情 作曲/松月清水 振付/岡田豊

- 1 阿波の牟岐町 南に向いて 春を待たずに 豆が咲く
- 2 舟は港に 鴨は沖に 牟岐の渚は 夕焼ける
- 3 八坂橋越し 大阪あたり 春は桜の 花吹雪
- 4 牟岐の港を 出船の時にや 後ふり向き ふり返り
- 5 向う出羽島 なつかし 船に蝶々も ついて行く
- 6 誰と別れか 観音山の 夜明け鳥が 鳴いて行く
- 7 五剣剛切 矢筈が目あて 船は港を 差して来る
- 8 舟で廻れば 出羽島一里 島にや大池 蛇の枕
- 9 波の音聞き 小張の松は 思いやいく 年経たのやら
- 10 牟岐の大川 橋流されぬ 流しや便りが 遠くなる
- 11 磯の遊びぢや 小島の浜や 波もしづかな 砂美の浜
- 12 沖の大島 姫神様は 通う船路の 守り神
- 13 八坂八浜の 難所でさへも 親の後生なら いとやせぬ
- 14 見たか出羽島 どのせの浜に うつは荒波 花と散る
- 15 雲の中から 雨ふり月が 浜の小舟の 中のぞく

★新民謡「牟岐みなと節」の歌詞、仮名遣いなどは原文ではなく「定本 野口雨情」を基本資料としています。

★牟岐みなと節の「歌碑」は1、2、4、7、8、10、11、12、13、15節の10基が設置されています。(2017年現在)

★新民謡「牟岐みなと節」は、1、2、3、11、12節のみが音源化され、現在も大切に語り継がれています。

雨情が訪れた 牟岐町とは

四国の右下にひらける牟岐町は、徳島市から約70kmの地点にあり、海の幸、山の幸に恵まれた人情まるやかな港町です。室戸阿南海岸国定公園の白眉である景勝八坂八浜には、サーフィンのすさる内海海岸があり、町から約3.7km沖合には、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された出羽島があります。島は亜熱帯気候で、国指定天然記念物のシラタマ王の自生地としても知られ、隣接する阿波大島海中公園には、高さ9m、周囲31mにもなる円錐形の、世界最大級のコブハマサンゴ（千年サンゴ）が生息しています。

